

薬剤師が習得すべきベッドサイドでの知識・スキルを学ぶ



薬剤師のための ベッドサイドティーチング 2016

キー局と全国ファイザーの拠点を双方向に結んで行われるWebセミナー

岩手盛岡会場

第 4 回

抗がん剤治療の実際



セミナーコーディネーター

青木 眞 先生

感染症コンサルタント



演者

山内 照夫 先生

聖路加国際病院
腫瘍内科 部長

日時

2016年12月14日(水) 19:00～21:00

場所

ファイザー株式会社 盛岡オフィス
盛岡市盛岡駅西通2-9-1マリオス19階

*本セミナーは、公益財団法人日本薬剤師研修センターの研修認定薬剤師制度における
グループ研修受講単位(1単位)を申請できます。

主催 ファイザー株式会社
後援 盛岡薬剤師会

担当:水野 拓馬
連絡先:080-5059-0851

第
4
回

抗がん剤治療の実際

がんは昭和56年以降本邦において死因第1位となっている。近年抗がん剤治療は新規抗がん剤や分子標的薬の出現で効果や安全性の点でがん治療における位置づけが変化してきている。抗がん剤治療の多くは外来で行われるようになっており、抗がん剤治療を外来で安全かつ効果的に行うために薬剤師の抗がん剤治療における役割が非常に重要になってきている。現在、抗がん剤治療は外来に移行してきており、中でも調剤薬局薬剤師にも抗がん剤治療の知識を求められるようになってきている。

抗がん剤の適応は、がん種や進行度によっても異なり、また、その目的も異なる。目的に応じた治療薬選択や副作用対策が行われている、通常臨床で頻繁に遭遇する代表的ながん種におけるレジメンの薬剤やスケジュールに精通していることが求められる。

これら外来抗がん剤治療の実際を米国や聖路加国際病院における実情を紹介しながら、薬剤師としての注意点や期待される技能について解説する。

○ 山内 照夫 先生 略歴 聖路加国際病院 腫瘍内科 部長

- 1988年 鹿児島大学医学部 卒業
- 1988-1991年 聖路加国際病院 内科研修医
- 1991-1992年 聖路加国際病院 内科チーフレジデント
- 1992-1994年 東京慈恵医科大学 第一細菌学教室専攻生
- 1994-1996年 ハーバード大学ダナファーバー癌研究所 研究員
- 1996-1998年 ジョージタウン大学ロンバーディがんセンター 研究員
- 1999年 米国国立衛生研究所 研究員
- 1999-2000年 ジョージタウン大学 内科研修医
- 2001-2004年 ハワイ大学 内科研修医
- 2004-2005年 ハワイ大学 内科チーフレジデント
- 2005-2006年 ハワイ、ホノルル 内科開業医
- 2006-2009年 南フロリダ大学 モフィットがんセンター 血液内科・腫瘍内科 臨床フェロー
- 2007-2009年 南フロリダ大学 医学大学院 臨床・トランスレーショナル研究 修士号
- 2009年-現在 聖路加国際病院 腫瘍内科 部長

- ・米国腫瘍内科専門医
- ・米国内科専門医

開催スケジュール (2016年度)

開催日	テーマ	担当講師	開催日	テーマ	担当講師
第1回	終了	バイタルサイン編 徳田 先生	第4回	12月14日(水)	腫瘍学編 山内 先生
第2回	終了	症候論 須藤 先生	第5回	2月15日(水)	循環器編 香坂 先生
第3回	終了	小児科編 笠井 先生			